

[博士論文審査要旨]

申請者：王 志乾

論文題目 Misalignment of East Asian Currencies

審査員 小川 英治

中村 恒

小西 大

本論文は、東アジアにおける地域通貨協力に関連して、東アジア通貨間の域内為替相場のサーベイランスに用いられる AMU (Asian Monetary Unit) 乖離指標を改良するとともに、その改良した AMU 乖離指標を使って、外的ショックに対する東アジア通貨間の非対称的反応、すなわち東アジア通貨のミスアライメントが一時的なものか、あるいは長期にわたって持続するものなのかについて実証分析を行った。さらに、東アジア通貨のミスアライメントが世界金融危機前後においてどのように発生したかについて実証分析を行った。

AMU 乖離指標の改良については、従来、ベンチマーク為替相場を固定していたのに対して、バラッサ・サミュエルソン効果を考慮に入れた購買力平価を時变的ベンチマークとすることによって、ベンチマークの構造的変化を考慮に入れた。その改良した AMU 乖離指標に基づいて、単位根検定と誤差修正モデルによる共和分検定を行って、東アジア通貨のミスアライメントが長期的にも持続していることが見出された。さらに、 β 収斂と σ 収斂の分析手法を利用して、世界金融危機の前後に東アジア通貨の間でどのようにミスアライメントを起こしていたかを分析した結果、世界金融危機が発生する前からすでに不安定の状態に陥ったことが明らかとなった。その原因の一つとして、2005 年半ばから行われていた通貨のキャリー・トレードを指摘した。これらの分析は、時系列分析の手法を駆使して行われ、興味深い結果を見出している。

一方、本論文には残された課題がある。第一に、AMU 乖離指標の改善は実物経済面から考慮されているが、国際資本面から金利の影響が考慮されていない。第二に、ミスアライメントがシステマティックに起こっているのかどうかについて、踏み込んだ分析が足りない。これに関連して、ミスアライメントを縮小するために必ずしもサーベイランスが必要であるとは言いきれない。第三に、今後の課題として東アジア内外の資本移動と東アジア通貨のミスアライメントとの関係を実証的に分析する必要がある。

以上のような課題を残すものの、本論文は、内外の査読付き学術雑誌に掲載されている論文を複数含んでいて、総合的に学位授与に足る水準に達していると認められる。よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第 5 条第 1 項の規定により一橋大学博士 (商学) の学位を受けるに値するものと判断する。